

日時 2012.05.12(土)
山域 富士山須走口・山岳スキー(生涯1500回記念登山)
参加者 後藤隆徳、井上弘二郎、内藤良明、ゲスト・工藤八郎
標高差 上り 須走口五合目約2000m～後藤最高到達点約3100m＝約1100m
下り //



1. 須走口五合目発 6:05

朝は快晴だった。今日は私の生涯1500回登山の日。気合は入っていた。五合目で桐生から馳せ参じたスキー仲間の工藤さんと合流。朝1:30に出て来たと言う。工藤さんも気合十分だ。上の駐車場脇から出発。20分も歩くと雪が出てきた。今年の富士山は雪が多い。気が付くと私は一人旅でグングン上っていた。今日は最後までスキーを背負う積りで、シール等軽量化してきたので、荷物は少し軽めだったかも知れない。

2. 標高約2540m 7:40

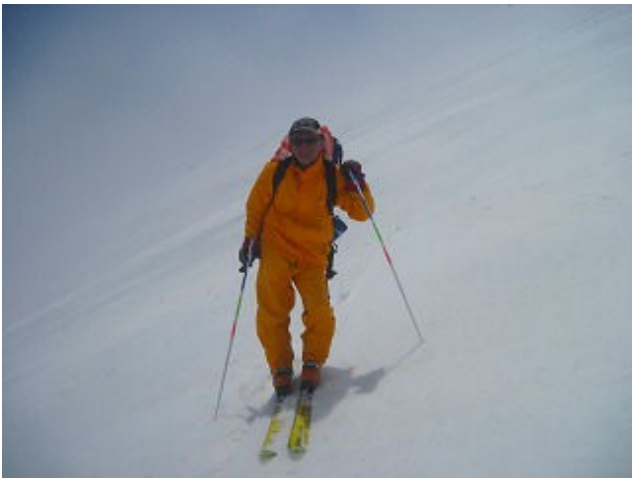
先行者が5～6名いたが、気が付いたらトップで上っていた。沢から須走口登山道に横断する。後続の皆は沢を上っていた。本来は登山道を上るべきだろう。Kが先頭でIが続いていた。今回、初参加のNは大きく遅れていた。無線機を持参しなかったのでNの様子が不明だった。万が一を考えると、マズイ状況だった。尾根上でしばらく様子を観察する。

しかし、埒が明かないので、ここからNのところまで、一旦滑って様子を見に行く。標高差で150mほどだろうか。Nは遅れてはいたが、元気で問題はなかった。スキーを脱いで再び背負って上り出す。ここからも大きく横断して須走口の尾根を目指した。



3. 標高約3100m 11:00

携帯が鳴った。Iからだ。現在約3050mで休憩中とのこと。どうするか問われたので12:00まで、八合小屋まで頑張ると伝えたが、この頃よりガスがバンバンと湧いて来た。富士山のホワイト・アウトの恐ろしさを十二分に分かっている私は、即下山を決定。とりあえず、3000m付近にいるNの所へ下る。そしてIにも大声で下山を促した。Iはスキーで滑って来て合流した。これからどうするのだが、とてもスキーが出来る視界がなかった。



Nさん



4. 須走登山道約2500m付近 12:20

3名でスキーを背負って下る。山スキーでスキーで下れない程、最悪な事はない。しかし、このホワイト・アウトは、一体何だ。兎に角、己の周囲2~3mしか分からない。下を向いて雪上の足跡が辛うじて分かる位である。これだから富士山は怖い・恐ろしい・難しいのだ。

しばらく下るとガスは少し薄くなった。何とか滑れそうなので、スキーを履く。ここからはサイコだった。程よいザラメが続く。各自、思い思いのシュプールを描いた。



5. 須走登山道約2100m付近 12:50

至福の滑りは、アツと言う間にお終い。それでも雪はかなり繋がって、2100m付近まで滑れた。途中で休憩舎があって、何人かのスキーヤーがいた。

スキーを背負い登山道を下ると、朝の道に出て簡単に駐車場に到着。時間は早かったが、富士山は相変わらず霧の中だった。やっぱりこの山は午前中に滑り降りないと、「悪魔のガス」に捕まる。もっと早い時間に上りたい。



Nさん、I君



←↑ Kさん

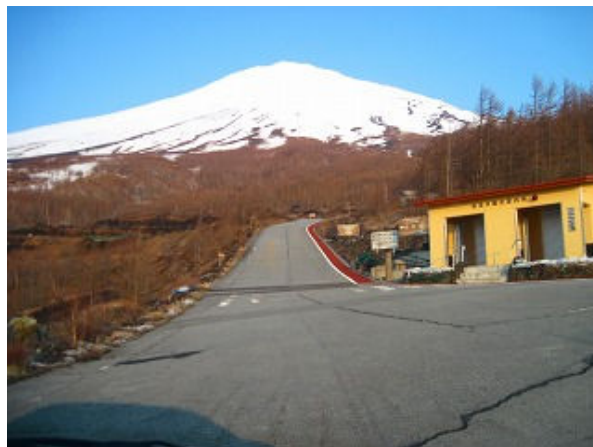


須走口五合目

6. 駐車場 13:20

駐車場に着き、Kさんにメールを入れていたら、Kさんは降りて来た。ガスが晴れギリギリ滑れたようだ。Kさんとはここで別れ。

Kさんとは、数年前白馬で知り合った。何故かご縁があり今日までお付き合いが続いている。Kさんは毎年スキーの記録を纏めて送ってくれる。その記録集は、昨年で5冊になった。毎年、これだけのものを発刊続けることは、物凄エネルギーを必要とする。今年も是非、頑張ってお送りしたいものです。



朝の富士山

生涯1500回登山について

以前も書いたがこの記録は、登山回数で日数ではない。日帰りも1回、北アルプス冬山も一回、ヨーロッパアルプスも1回、ヒマラヤも一回で数えている。

現在、山行記録を綴った大学ノートは37冊。正式に残っている第1回登山は、1965年（昭和40年）4月の箱根・玄岳～熱海のかもしか山行。（注・1）これより以前もあるが、正式に残っていない。

500回は、1989年9月。1回から実に24年掛かっている。年間平均21回。月平均2回弱。昔は丹沢に行くのに御殿場線の蒸気機関車で行った時代。（注・2）今と一回の登山のエネルギーが違った。

1000回は、2001年8月。500回から12年。ちょうど500回までの半分。時代は車社会になり林道も整備され山は行き易くなった。

1500回は今回で2012年5月。1000回から11年だから、意外とペースは変わらない。最も1年違いは、最低でも30～40回前後違うわけだから、1年短縮は大きい値だ。

さあ、これで2000回が王手だが、あと10数年掛かるだろう。年齢では70歳で、果たしてそこまで上っているだろうか??（笑）

まあ、気長に・気楽に・気持ち良く続けて、是非達成したいものですね。



2012.05.12

富士山須走口

生涯1500回登山

注・1 かもしか山行・・・夕方出発して、夜通し歩く山行。眠くて堪らない。昔は結構やった。

- ・2 蒸気機関車・・・この経験のある方は、相当のベテラン。知っている人は少ない。兎に角、時間が掛かった。岩波・富士岡駅には、「スイッチ・バック」と言う、汽車に勢いをつけて上る線路があった。